今日の観察ポイント

キバナノアマナ

早春に可憐な黄色い 6 弁の花をさかせるユリ科の植物です。実をつけるころには葉は枯れてしまい、いわゆるスプリングエファメラル（早春植物）のひとつです。黄花のアマナは北海道には 3 種が報告されていますが、普通にみられるのが、キバナノアマナで、他の 2 種は個体もすくなく、このあたりには分布しないようで、私はみたことがありません。黄花でない「アマナ」という植物もありますが、北海道には分布せず、白い花を一輪咲かせ、同じユリ科ではありますが、属は違い、だいぶ感じは異なる植物です。

【キバナノアマナ】　ユリ科　キバナノアマナ属

地下の 1cm～1.5cmの球根（ゆり根ですね）から毎年、春に細長い葉と花茎を一本づつ同時にだし、花茎の先端に数個～10 個程度の黄色い花をつける多年草です。葉はニラやスイセンのような細長い根出葉で、15～30cm、少し肉厚で、白っぽい粉をふいたような感じが特徴です。花茎は 15～25cm、2 枚の苞葉をもち、先端に 4～10 個の 6 弁の 2cmくらいの花をつけます。開花直後は少し緑色を帯びていて、のちにきれいな黄色になります。雄蕊も 6 本、雌蕊は 1 本で果実は 3 稜のある白っぽい7㎜くらいの蒴果になります。甘菜のとおり、葉や球根は食用になり、アイヌ語でもチカプ・トマ（＝鳥・延胡索の根塊の意）といってゆり根のところを焼いたり、葉を汁の具にしたりしたようですが、量も少なく、愛でるだけにしたいですね。葉は弱弱しく、枯葉が厚いとなかなか押しのけて芽がだしづらいようで、適度に草刈のはいる明るい、公園や土手、林床によくみられるようです。北海道から本州、ヨーロッパなどに広く分布。花言葉は「運が向いてくる」、「前途洋々」、小さい植物ですが春の明るい雰囲気がありますね。

【ヒメアマナ】

10～15cmとキバナノアマナより花も含めて全体が小さく、花数も 2～3 個とすくない。大きさ以外の違いは、葉にキバナノアマナのような白っぽさがないこと。葉は細くて、扁平（平ら）。分布は道南から日高地方に多いそうです。北海道レッドブックの絶滅危急種。

【エゾヒメアマナ】

こちらも 10～15cmと小型。ヒメアマナとの違いは、やはり葉で、線状の葉脈に溝状のくぼみがあるのがエゾヒメアマナ。また花茎の苞葉が茎を抱くのもヒメアマナとの違いだそうですが、別種かどうか異論もある　　ようです。分布は道東、道北に多く、北海道レッドブックの希少種。

※参考までに　白花のアマナ

【ホソバノアマナ】　ユリ科　チシマアマナ属

一つの茎に花は 1～5 個

【チシマアマナ】ユリ科　チシマアマナ属

花は 1 個。高山植物で夕張岳などに分布

【アマナ】ユリ科　アマナ属

白い花が 1 個。2～2.5cmと大きめ。本州に分布

（写真はアマナ）

（写真･文：　磯）　　ヒメアマナ、アマナの写真はネットから借用